

たかみくらやま
「東播支部歴史ウォーク 高御位山（播磨富士）登山」

～ 歴史と自然を満喫 ～

東播支部事務局長 細貝 寛徳

東播支部は、石田支部長以下 12 名が令和 7 年 11 月 8 日（土）午前 9 時 45 分、兵庫県加古川市志方町・成井登山口駐車場に集合し、高御位山登山を実施しました。

標高三百四メートルの高御位山は「播磨富士」と称され、東播磨丘陵地の高御位山系は「播磨アルプス」とも呼ばれます。全般に岩場が多く、濡れた路面は滑りやすいため注意を要しますが、成井登山ルートは初心者にも比較的登りやすく、安心して歩むことのできる登山道です。約 25 年前に整備され、「一丁」から「十八丁」までの石柱と石段が設けられ、途中には休憩用ベンチも配置されています。今回の参加者には七十歳を超える方も多く、歩調を合わせ、一步一步着実に登ることを心掛けました。

【高御位山】頂上からの素晴らしい眺望



山頂付近には、印南郡で最も早く神を祀ったと伝わる高御位神社があります。主祭神は大国主命(おおくにぬしのみこと)を祀る高御位大明神で、古文書『播磨国印南郡高御位山略縁記』には神がこの地に降臨した旨が記されています。この地はまさしく加古川市を代表する霊験あらたかな名所です。さらに、鎌倉時代末期から南北朝時代の地誌『峰相記』には、高御位神社の神と生石神社(別名：石の宝殿)の女神が夫婦であるとの記述も記されています。

【パワースポット】 高御位山神社にての集合写真



参拝後は山頂の岩稜に上がり、明石海峡大橋、関西国際空港、六甲山、さらに四国方面までを一望できる眺望を堪能しました。眼下には紅葉が始まり、真紅の木々が点在する秋の風情を楽しむことができました。

なお、10月末に近隣でクマの出没情報もありましたが、会員の中には熊よけの鈴や警笛を携行するなど十分な安全対策を講じ、幸い何事もなく下

山し、無事に解散しました。参加者の表情は爽やかで清々しく、歴史と自然に触れた充実の一日となりました。

頂上で寛ぐ支部長と事務局長



飛翔の碑



下山後の参加者による集合写真

